① 訃報 平成 25 年 4 月 6 日以降に判明した方々 謹んでご冥福をお祈り致します。

19 理甲 4	小松原毅一	平成 12 年 7 月 27 日	所沢市
---------	-------	------------------	-----

② 住居・勤務先変更

* 住居変更 21 文甲 2 岡崎 守男 (6 月以降)
〒 222-0026 横浜市港北区篠原町 3063-1 C アミーユ新横浜篠原 308 号室

③ 午餐会・懇話会

- * 第 501 回午餐会 25 年 4 月 6 日 (土) 正午～14 時 30 分
於 中央電気倶楽部 317 号室
講師 恩田 雅和 天満天神繁昌亭 支配人
テーマ 「夏目漱石と大阪ー漱石はなぜ天下茶屋へ行ったか」
出席者 6 文甲 遺岩根正尚・15 文乙 藤井甚十郎・17 文 2 螺良英郎
18 理甲 1 遺新家和己・19 理甲 3 三浦昭二郎・20 理 2 鶴岡誠
21 文甲 1 真銅孝三・文甲 2 露口佳彦・文乙 村田正孝・理 1 小谷剛造
21 理 2 武田晃世・前田泰敬・22 文甲 2 井本憲伺・理 2 松浦實・三島佑一
22 理 4 大路清嗣・事務局 阪田訓子 以上 17 名
- * 懇話会・阪南支部協同企画 25 年 4 月 11 日 (木) 13 時～17 時 30 分
「平成の五重塔と観心寺を訪ねる半日の旅」
集合場所 南海本線「堺駅」西出口ポルトラスセンタービル前でマイクロバスに乘車
行程 南海本線「堺駅」前 (13 名乗車) →南海高野線「金剛駅」前 (7 名乗車) →
ビーンズ工房「楽豆屋」→願昭寺五重塔 (平成 23 年 11 月竣工)・本堂参拝→
観心寺拝観 (高岸支部長の親戚元河内長野市助役 伏谷勝博氏が折からの小雨の中
ご案内下さる) →南海高野線「堺東駅」前解散。有志 15 名は懇親会 (二木会)
に出席 (後掲支部だより参照)
参加者 3 理甲 遺津賀美智子・17 文 1 佐伯秀穂・道子・理甲 1 栗野正之
18 理甲 1 遺新家和己・理甲 4 高岸宗吾・悦子・20 文乙 城野伊一郎
20 理 1 大塚頼三・理 2 鶴岡誠・千代子・21 文甲 2 渡邊祐吉・節 (四日市)
21 文乙 遺今井睦子・理 2 武田晃世・セツ子・理 4 西村順三・22 理 2 三島佑一
22 理 3 井上達明・事務局 阪田訓子 以上 20 名
- * 文楽 4 月公演鑑賞会 25 年 4 月 24 日 (水) 於 国立文楽劇場
第 1 部 開演 11 時 伽羅先代萩・新版歌祭文・釣女
出席者 17 理甲 2 山本昭夫・靖子・18 理甲 3 遺浅井清子・20 理 2 鶴岡誠・千代子
21 文甲 1 穎川勉二・章子・遺小原美子・理 2 武田晃世・22 理 1 阿澄一寛・知人
22 理 1 杉野浩次・事務局 阪田訓子 以上 13 名
第 2 部 開演 16 時 30 分 心中天網島
出席者 6 文甲 遺岩根正尚・18 理甲 2 宇津敏勝・泰子・22 理 3 井上達明 以上 4 名

④ 各地寮歌祭

* 第 3 回松江クライン寮歌祭 25 年 4 月 6 日 (土) 於 ホテル一畑
参加者 19 理甲 1 津田泰男

⑤ 支部だより

* 阪南支部 二木会 25 年 4 月 11 日 (木) 18～20 時 於 堺東「Continuer」
前掲 懇話会と協同企画「平成の五重塔と観心寺を訪ねる半日の旅」解散後、有志により
開催。二木会は従来堺東「本店 嶋川」で毎月開催して来たが、昨年社長死去により
休店中、他店を利用して来た。今般、同店の 池田シェフが近くにフランス食堂を開店
したので、5 月以降、第 2 木曜 13 時より開催。
参加者 津賀夫人・佐伯夫妻・新家夫人・高岸夫妻・城野・大塚・鶴岡夫妻・今井夫人
武田夫妻・西村・井上 以上 15 名

⑥ 同期同級交歓

* 15 回理乙クラス会 25 年 3 月 30 日 (土) 12 時 30 分～
於 大阪心斎橋 ハートンホテル心斎橋 1 階「大観」
出席者 小宮山馨・竹村喬・中島一・前田哲郎・山本春也 (町田市) 以上 5 名

⑦ 運動部・同好会だより

* 待兼山俳句会
世話人全員阪大 O B に委ね、大阪大学の俳句会に移行したため今後掲載は中止します。
句会報は <http://www.osaka-u.jp/haikukai/> を開いてご覧下さい。-

追 慕

吉森 昭夫君（19理甲1）を偲ぶ

20理1 大塚 穎三

吉森君は茨木中学から浪高へ入学された俊才でした。私より1年上級でしたが、大学入学時に体調悪く、私と同じ入学となりました。阪大理学部物理学科の同級には、小松原毅一君（19理甲4故人）、難波寛臣君（18理甲3故人）、種井昭二君（20理1）、西川喜之君（20理1）がいます。吉森君と私は浪高時代は交流がありませんでしたが、阪大物理時代は3年時に同じ永宮健夫先生の研究室配属の学生となりました。同研究室は、学生数が少なかったので、学部学生にも机とロッカーが支給されていました。彼とは机を並べて、松原武生先生の指導で、卒業研究を競い合いました。卒業と同時に彼は浪速大学（現大阪府立大学）助手、私は大阪市立大学助手に就職させていただきました。理論物理出身の学生にとっては、破格の幸運であったと言えます。これは偏に永宮先生の推薦の賜物です。

彼はその後東大物性研究所助教授、大阪大学基礎工学部教授と栄進しますが、その間、仁科記念賞、紫綬褒章などの榮に輝き、晩年は仁科記念財団が、年に一度、記念賞受賞者を招いて新たな受賞者を中心とするパーティを主催し、其処では私と毎年顔を合わせて居たのに、昨年は彼の姿が見えず、病中と貞子夫人から伺い、阪大病院に見舞いに行ったのが、最後の出逢いとなりました。月末には退院できるとのことでしたのに、病魔の進行は意外に速く、1ヶ月後には訃報に接し、信じられぬ思いです。親友というより、戦友同士という関係であり、軍歌ではありませんが、訃報に接し、思わず落とす一滴という気持ちです。お互いに語り尽くせぬ言葉が未だ残っていますが、あの世で再会するまで、暫し安らかにお眠り下さい。

林 治夫君（20文乙）を偲んで

20理1 大塚 穎三

林治夫君は、尋常科1年から同じクラスで、机は私の直ぐ前で最前列でした。生来の短軀と極度の近眼（片目は失明）で、余り風采は上がりませんでした。秀才というより天才という感じで、正規の授業など何処吹く風で、独自の教養を身に付けておられました。ヘルマン・ヘッセに傾倒し、ダイナミカルな文章を自分で書き、優れた随筆を拝見したものです。石川啄木が「雲は天才である」と述べたことは有名ですが、林君も雲に憧れ、雲は永遠であり、死の力であると記述しています。自身雲の如き天才であることから来る共感だったのでしょうか。尋常科1年の時、藤田新三郎先生から課せられた数学の難問を彼1人が見事に解き、天文学の造詣も深く、当然理科に進まれると思っていたら、意外や文乙。父上が法曹界の人であり、その道を継がれるのかと思ったこともありますが、そのような月並みな志望は持たず、一応京大法学部は出たものの、法曹界は見向きもせず、大津ゴム（オーツタイヤ）に就職。社長秘書室というところで余裕のある街道を歩まれました。社務には真面目で、同期の築山善己君（20文甲から京大法学部）などと一緒にグループ旅行など楽しむ余暇もあったようです。しかし晩年はパーキンソン病に冒され、電話で話しても全く声が聞き取れず、奥様の通訳で挨拶を交わしたことが一度あるだけでした。

弥生の空に雲と一緒に飛び散った貴君、彼岸で自由を謳歌し給え。